

遠隔環境における プレゼンテーション練習支援手法の検討

山口昌也 (国立国語研究所)
森 篤嗣 (京都外国語大学)

北村雅則 (南山大学)
柳田直美 (一橋大学)



研究の背景と想定するプレゼンテーション練習

対面環境

- 協同型の教育活動&活動支援 (プレゼンテーション練習, ディスカッション練習)
- 観察支援システムFishWatchr

- COVID-19
- ビデオ会議システムの普及

遠隔環境

- ビデオ会議システムを介したプレゼンテーション練習
- 遠隔環境に適したプレゼンテーション練習支援

1 自分の練習を録画



練習は最大5分程度

2 互いの練習を観察



- 3, 4名のグループ
- 各自のPC上のFWで練習ビデオを観察

3 合同振り返り



- 全員の観察結果をマージ
- ビデオ会議システム上で振り返り

4 個人振り返り

次の練習に備えて振り返り

このプロセスはハイブリッド授業でも利用可



必要となる支援とFishWatchrの拡張



FishWatchr
のHP

番号	時間	証者	ラベル	セット	コメント
1	00:27	不特定	グループ	20170621_グループ【A】閉席	
2	00:39	-	話し方	noname	
3	00:47	-	ジェスチャー	noname	
4	00:53	-	話し方	noname	
5	00:59	-	スライド	noname	
6	01:04	-	話し方	noname	
7	01:13	-	話し方	noname	
8	01:19	-	アイコンタクト	noname	
9	01:24	-	アイコンタクト	noname	
10	01:24	-	アイコンタクト	noname	

- 気になったシーンにラベルやコメントづけ (例:「話し方」ラベル+「良い」ラベル+コメント)
- アノテーション箇所を再生
- 複数ユーザのアノテーション結果をマージ可能



アノテーション方法
(YouTube)

● 実践データの共有

実践データ

- 練習の動画(1分60MB程度)
- 観察結果(XMLファイル, たかだか100KB)

共有方法

- ファイル共有サイトを利用し, URLのみ共有 (FWは大学のLMS, YouTubeなど一部のファイル共有サイト上の動画を再生可能)
- P2Pでファイル共有

- HTTPに基づく, P2Pのファイル共有機能を実装中
- ファイル共有用のサーバ, および, 学習者用アカウント管理を不要にする

● 複数メンバーの実践データの管理と利用

- アノテーション時のラベルの統一
- ユーザの管理(ユーザ名の衝突など)
- 練習動画ごとの観察結果のマージ
- 合同振り返りの対象にする練習の切り替え

- データの管理は可能な限り自動化 (複数の観察対象のデータ管理など)
- ユーザ管理は学習者にまかせる

● 意見伝達の効率化

- 遠隔環境がメンバー間のコミュニケーションを制限する可能性
- 振り返り箇所を決めるのに, 個別の観察結果をすべて検討するのは難しい

- 練習全体に対する評価を記述するための「診断シート」を付与できるよう拡張
- 記述は, 手順②で実施